〔可認物便郵種三第〕 昭和十年五月八日 磐城新聞 〔水曜日〕 第四千三百十六號 〔一〕

夕刊 磐城新聞
五月七日發行
日曜祭日翌日休刊

古書漫談 四

田中伸一郎

散歩がてらに立寄つたら中村憲吉の『林泉集』初版本があつたので、それから病みつきになつて度々行つてゐる

永年欲しいと思つてゐた本があつた時の喜びは古書趣味のある者ならではとても解せぬ心境だ。幼時讀むだ本に久し振りで出合つた時等まるで舊友に會つた様な氣がする

中々珍本も出る。明治十年發行の『亞細亞言語集』の著者贈呈本が端本であつたが出た。明治十一年『歐米派遣全權大使』の報告書も此處から出た。地方關係としては明治四十五年高久村の箱崎氏著『實驗農業全書』がある

この書は明治年間東北地方を見舞へる大飢饉に鑑み感ずるところあり、在來の理論偏重に對し實驗を主張し、米麥の栽培は勿論、諸雜穀野菜の栽培、保存、料理に至るまで悉くして餘す處なく、附錄の十二支に依る豊凶作の判斷まであり、東北飢饉が問題にされてゐる今日貴重な文獻である。この書は昨年十一月、千葉成田圖書館で開催された救荒飢饉展覽會にも出品されなかつたものである

この他福澤諭吉先生の『民間經濟錄』の初版本等先生の明治時代の著書は大半出てゐるのも面白い。和本では『柳樽』の初編と八編とが出てゐるのは意外であらう

この邊で古本屋に對する注文があるから一、二羅列して置かう

一、全集物、揃物は端本として賣らざる事。その反面に進むで端本は集めて完本とする位の意氣があつて欲しいものだ。こうした事は寧ろ古本を商ふ者の道德でさへある。事實大正、昭和の出版物でさへ零本と一度なつたら最後、揃へるのは難中の難である。それが百年も二百年も前のものとなると絕對不可能でさへある、その點一寄をわづらはしたい。例へ全集物を割高に一冊賣りしても書翰文、日記等は結局殘本となるのであるから大した利益にもなるまい

二、書入等をそのまゝにして欲しい

古本の新本同樣なのも良いが古本の書入、藏書印など捨て難いものである。殊にそれが私淑する人物であつたりした場合はどうであらう。時には兒戲に等しい汚損本も少くないが、それさへインキ消やゴムで消したり、扉を糊張したりするのは古書の冒瀆でこそあれ決して客を益するものではない。修補するのさへ原影を失はざる樣細心の注意と美的感覺を必要とするのであるから、下手に手を加へず、そのまゝにして飽くまで客本意、客の商品であることを忘れずに賣つて貰ひたいものだ

台灣の旅

六　青木淳

こんど臺中州の鹿港街に行つてみた。彰化で汽車を降りバスにゆられて西海岸に向ふと、やがてローマの廢墟のやうな大きな建物が目についた。何といふ大きな建物かと驚く、街に入つてみると赤煉瓦の家が古くさびて半くづれ落ちてゐるのが多く、道中もせまく大きな四角のレンガが敷きつめてあり、それが長年の風雨に曝されて凸凹になつてゐる、この街を保正さん(內地の區長さん)に案內されてあるいてみると、まだ見ぬエスパニヤの古い街のやうな感じがしてならぬ。昔は支那の舟が、毎日ドン〳〵入つてゐたのが、漸次入らなくなり港もさびれ年々人口が減つて行くのだといふ。貧にやつれた老人等が長いきせるで、うすぐらい處で煙草を吸ふてゐる景色など、全く氣が滅入つてしまふ。しかし、何かしら奥床しいところのある町だと思つた

×

ここまで書いて來ると、長い夏の日も暮れかかり暮色蒼然といふところ。けふはめづらしく晴れて星がかがやき始めた。何も知らぬ虫がないてゐる。何か旅愁といふやうなものが感じられ一入磐城の天地がなつかしまれる

窓から見える山あたり、先年の霧社事件で多くの生靈が失はれたであらう。の山嶺つゞくところ、北白川宮殿下の親しく御討伐なされしと考へ、また自分の親も臺灣征伐に來て靑年將校として活躍したであらう事を思ふと、又一入の感慨が湧いて來る。最早一生來る事もないであらう、この臺灣の大自然に對して私はこよなく戀着を覺ゆる(臺中州埔里街にて四月十九日夕)

○………×
×………○

潮聲硯靜抄帳

雜詠　前田普羅選

出代りや葛籠おもたき椽の端　文狂
鶯や研究室の夕日影
春の暮湯の欄かけて汽車走る　對星
春立つて日の雨走る端山かな

磐越東線
春の曉モーターカーが通りけり　花堂
田螺とる鑛夫の妻と子供かな
雜木山椿のこしてきられけり　石城
赤井颪いよ〳〵つのり寒の街　眞砂常
對岸の舟のゆれ居り猫柳　茂堂
短日や既に灯りし森の家　芳月

久能山

佐波古湯嶽

屹立峻嚴東海濱
千秋廟食古權臣
英雄覇業有終美
七寶珠宮麗外春

夕ぐれ

三宅調

きれいなお空に
三ケ月樣が　ポカリ
夕ぐれのお庭に
風が風がふいて
木の葉が　バラリ
お池に散つた

おとなりの屋根でないてた小鳩はどうしたろ

その日〳〵

5月8日
△大阪落城(元和元) △小學校の創立(明治五) △米穀委員會は古米百萬石買換を承認す(明治八)

○

ぼんぼりの明りに松ケ岡の夜のつゞじ——。櫻はあまりに大衆的だが、躑躅にはインテリの匂ひがある。

小説　誰が殺したか (11)

國枝史郎作　龍造寺膽畫

第一の殺人 (十一)

あつ、この野郎、泊りこんでやがる、しまつた、もう手遲れだ!

ハッと首を引つ込ませてドアを閉めやうとすると

『おい』

と、強い聲が咎めた、定吉はびくりとした

『おい、默つて人の部屋をのぞいて見る奴があるか』

『へゑ』

と、はじめて氣がついたやうに

『旦那でしたか、どうも失禮しました』

逃げやうとすると、追つかぶせて

『おい〳〵待て、定公待て』

『へえ』

『默つて歸る奴があるか』

『へえ』

『へゑぢやない、何故來たんだ……』

いつもの朗らかな青山とはまるで違つてゐた

あの綺麗にポマードで撫でつけた頭髮は、ばら〳〵に掻き亂れ、蒼ざめて、引き吊つたやうにケンのある顔に、眼の緣は赤く充血して、全體的に、ピリ〳〵と神經が苛立つてゐるやうに見えた、定吉は、今にもつかみかゝられさうな氣がした

『あの、實はその、ちよつと』

『何だ、蝶子にどんな用事があつたんだ、こんな朝つぱらから、ね、おい、返事をしろ、返事を』

『あの、蝶子さん、ゐないんですか、旦那』

『蝶子はちよつと外へ出かけた』

ダンサーがこんな朝早く起きて出かけるなんて、みえすいた嘘だつた

『それよりも、用件を云へ用件を』

『頼まれた事がありましてね……』

『何を蝶子から賴まれたんだ』

『靴を直してたいてくれつて』

定吉も嘘をいつた

『お前は靴の修繕も出來るのか……』

『へえ、出來ますとも、靴屋に三年もゐました』

『さうか』

青山の機嫌はいくらか柔いだ

『旦那』

『何だ』

『今、途中で、横濱の文公といふのと出會ひましたがね』

『文公つて何だ』

青山は、チラット額を曇らしたが、わざと落着いて素しらぬ顔をした

『旦那をよくしつてるらしいんです。急な用事が出來て、昨日旦那を訪ねて來たんださうです。一晩中待つてゐたけれど、旦那はとう〳〵歸つていらつしやらなかつた、また出直すといつて濱へ歸りました』

『文公なんて俺はしらん。どんな男だ』

『何でも濱で、ちよつと暗い商賣をしてゐるとかで……』

『俺はそんなのにしり合はない人違ひだらう』

と云つたが、暗い商賣と云ふ言葉が、びくりと來て明かに周章た樣子だつた

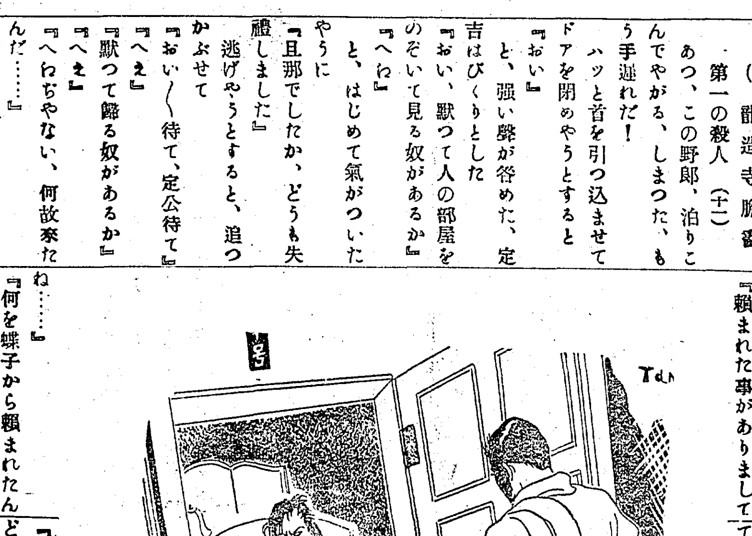
『ではまたあとで……』

と歸りかけると

『おい、俺がこの部屋にゐたといふことを誰にも云つちやいけねえぜ』

振向くと、青山は手の上で小型のピストルを弄びながら、射るやうにギロリと定吉をみた

『それから、文公のこともな!』



廣告

株式賣買、債權取立
合資會社 三共商事
平町大町電三六〇

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

新田町の
おでん かん酒 榮ちやんで
(十二、三の小年 至急募集)

前田醫院
院長 前田清美
植田町電話一二四

小店員募集
十四、五才希望者
御來談下さい
平町五丁目
山崎時計店

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい……
直に家政婦を派出します。
親切叮嚀 ……料金は極めて低廉です
姙産婦の御家庭 お留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二(電話二二)
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

石炭一〇〇%サーヴヰス
暖氣ニ向ヒダンゼン値下げ
一等塊 正味五十斤入一俵 金貳拾八錢
特塊 同 同 金參拾五錢
品質が優良 目方が正確 デナケレバ値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
市內ハ一俵ヨリ迅速ニ配達致シマス。
電話三七番
石炭 コークス 豆炭
阿部石炭商店

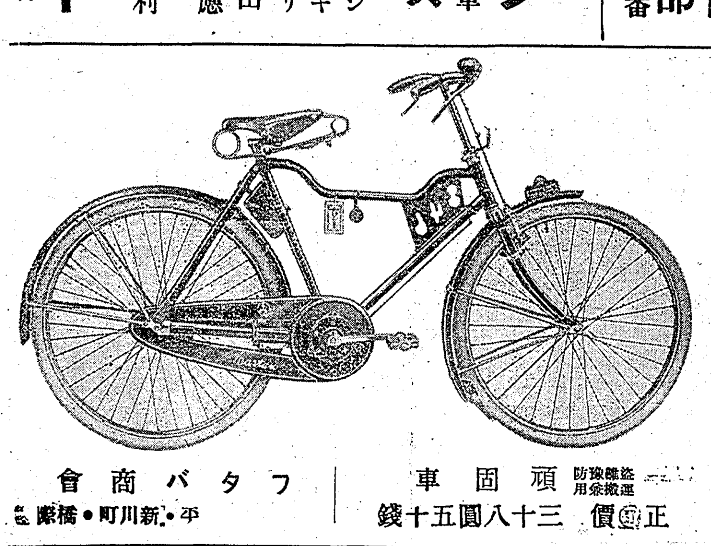
先づ御待ち下さい。
本邦唯一の定評ある後藤ボテー會社製作の豪華なる流線型高級遊覽バスが來る十六日に入車致します。樂しい御遊行、御視察御見學各種團体には是非此の遊覽バスを御利用下さる樣御願致します。
御申込は本日より承はり度ふ存じます。
尼子自動車商會
遊覽部
電六四〇番

新車御披露!
時代ノ尖端皆樣ノ昭和タクシーニ又々新車三五年ノ超モダン車拔群ノダッチブラザースガ入リマシタ。
安全、確實、迅速ハ他ノ追從ヲ許シマセン、匆匆シカツタ御花見モ過ギ去リイヨ〳〵遠出行樂ノ季節トナリマシタ、是非昭和ノ新車デオ出カケ下サイ、如何樣ノ御相談ニモ應ジマス。
團体ニハ地方唯一ノ大型遊覽車御利用願ヒマス。
驛前 昭和タクシー
電話 三四三・三四〇番

産婦人科
外科
藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內本宗八
藥劑師 玄番彌一
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

平町田町
高久病院
(電話五三一番)
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽淸
藥劑士 佐竹[illegible]雄
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

小兒科……
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番
(入院應需)



盗難豫防 運搬餘用 頑固車
正價 三十八圓五十錢
フタバ商會
平・新川町・橋際

臺所を開けつ放して暮し向の窮迫を示す
納税督勵に印刷物を配付
懐ろ冷い平町

町税滯納の累加により經理上少からず難澁を來してゐる町では滯納者中往々故意に税金の使途を疑ふ樣な態度に出で何とか納期を延ばさんとする者もあるので當局では此際財政狀態を一般に周知せしむる事により滯納禍を少くせんと今年も三十四萬三千八百五十六圓の十年度豫算內容、並に町債とこれが償還法及縣內各首要都市の戶數割比較などを詳記した『町の財政に就いて』の印刷物を近く町內全般に配布する事になつた

各部とも夫々大綱樹立に進む
昨今の平町市制調査會

平町の市制施行調査委員會は既報の如く各部何れも着々大平市實現の基礎資料を固めてゐるが調査中最重大な産業資源、並に財政部は昨六日午後一時から委員會を開き種々協議の結果(産業資源)物産陳列所縣斡旋所設置△平物産の創設並に奬勵△平土産の創設△市營平―小名濱間直通自動車通路開設△温泉掘鑿研究△屠場市營△火葬場電化△平町地下石炭採掘研究

尙財政部は井上議長が委員長として熟議した結果更に研究の餘地もあるので石巻石川、酒田、最近市制實現を見た新進都市並に平町と同一歩調で進んでゐる助川日立其他の參考資料を蒐集の上確固たる大綱を樹立する事になつたと

政友報告演說會
本部特派員を迎へ 十八日聚樂館で開催

政友會石城郡部會では來十八日聚樂館に於て
午前九時 幹部會
午後一時 總會
同 二時 鈴木、佐藤兩代議士會報告演說會
を開催する事となり本部より辯士の特派方を交渉中であるが目下の處豫算通の少壯代議士として知られてゐる群馬縣選出木暮武太夫氏らが話題に上つてゐる

杉山明射手再た首位
滿點四回の成績で 輝く優勝旗を獲得

優秀射手の名聲を馳せ昨年の成績により既に帝國獵友會から五段に推薦されてゐる內郷村杉山炭鑛主杉山今朝吉氏は去る四、五兩日東山射撃場に於て催された第十四回縣下獵友會並にクレー射撃大會に出席、例により非凡の妙技を發揮し滿點四回と云ふ稀有の好成績で一等に入賞優勝旗をはじめ若松市長牌大トロフヰー、自轉車、置時計、金メダル等數多の賞品を獲得昨六日歸村したが更に來二十六日神奈川縣鶴見に於て開催さるゝ全日本選手權大會にも出場優勝を期すと、尙ほ同村の馬目太平治氏も滿點二回にて二等に入賞前記と併せ團体優勝旗を獲得したので內郷青年有志が驛頭に出迎へ平町公園ときわにて兩氏を中心に祝宴會を張つた

身賣り防止
紹介所で極力斡旋

平職業紹介所が氣の毒な身賣娘を救ふべく先々月來貸付けた資金は郡內四名の外双葉、田村兩郡等合計千餘圓であるが、尙同所は今後悲境に泣く娘達には縣より融通を受け事情の許可限り救助する筈である

豊間電話擴張着工

豊間局では過般來電話加入區域の擴張を進めて來たが此程愈々大字薄磯沼內に四ヶ所を設置する事になり昨六日より工事に着手した

火因は吸殼
好間の山林燒く

好間村大字北好間字平場沼防植林から昨六日午後零時半頃發火松立木約四畝を燒いて鎭火したが損害二十餘圓の見込み、原因通行人の煙草の吸殼

兵事主任會

平署管內兵事主任會は六日午前十時から同署會議室に開き郡內三署管內主任會を來る八月上旬若しくは九月上旬の間に平署に開く外幹事を左の如く選任した
平―鈴木允、高久―薬谷明、小川―櫛田政松、鹿島―園部嘉雄

女工は未だ要る
錦村の昭和人絹 愈々來月下旬頃操業開始

錦村に建設された昭和人絹會社は愈々來月下旬頃の操業を前に過般來男女工を募集し男工は殆と充員、縣に女工五百餘名の大量斡旋方を依賴したので目下福島、郡山、若松、平の四紹介所で受付けてゐるが、今尙ほ男工採用が訛傳され昨今平紹介所には毎日二十餘名の男工申込みがあり些か手古摺つてゐると、尙女工の待遇は熟練士以下一等月給四十二圓から六等最低十八圓位迄であると

廣重の繪に見る樣な若葉に映ゆる奴子行列
賑ひを豫想される 七年目の釜戶諏訪祭 明後九日から三日間に亘り執行

七年目毎に行はれる廣重の繪に見る樣な『奴子行列』で有名な渡邊村釜戶諏訪神社の大祭は明後九日より三日間に亘り盛大に執行されるので水戶運事では當日の人出を見越して勿來―平間臨時列車五往復を運轉するやら少からず賑ひを豫想されてゐる、祭典中の呼物たる奴子行列は古代十萬石以上の大名行列の格式を倣つたもので今より約四百年前より始められたものであると云ひ

役附は同神社使者一名、荒馬に乘る上釜戶より殿樣家老一名の外老者、中老若者(奴子)幼者が加はり、薙刀、箱、台傘、長柄、雞毛を一組として同村大字松小屋、中釜戶各一組、上釜戶二組を編成し第一日は笠揃前祝をなし第二日早曉より松小屋中釜戶、上釜戶組の順序でこの蜿蜒たる大行列は宮元より繰出し松小屋、田部、洞、泉村泉、瀧尻を經て下川濱に至り、此の夜同濱御垢離の式並に古口氏宅入輿の儀があり第三日歸輿の際は往路と同道筋を辿る、十一日午前六時頃來社前御假家に着御、かくて笠拔の祭に移り所謂土堤廻りの式と稱する奴子行道最後の奉進あつて此の夜十一時乃至十二時の間に御假家より入御本殿に安置されるものであるが、この役付人員は八百名を越ゑ、氏子の祭費は實に二萬圓の多額に上る豪勢なものである、尙十日に同村では役場前に參拜所を設け行道は十日午前十時半頃より役場前を遊過する豫定であると

靈夢に不思議の示現
―諏訪神社の創建に關する渺茫三百六十年來の神話―

天正元年(紀元二、二三三西紀一、五七三)元旦藤原宗廣郷の靈夢に不思議の示現あり即ち神勅に遵ひで信州諏訪より神輿を迎へ海上恙く泉村下川瀨に着御古口某の供奉を以て天正二年八月十八日釜戶郷和武臺の勝地に宮柱を修造し神輿を安置し奉る是本神鎭座の起源にして古來郷士鎭護の神となる古は武將坂上田村麿、源義家等督軍の途次本社に祈願し夫々相應の寄進あり慶長年間平城主鳥居氏境內を擴張せしも元祿二年(紀元二、三四九西紀一六八九)不幸火災に罹り緣起寶物等悉く烏有に歸す、元祿五年再建享保四年(紀元二、五七九西紀一七一九)二月二十八日正一位の宣下あり爾來廢藩に至る迄年一回必ず領主の參拜あり又地方藩公名士の寄進奉納等尠からず祭典中最も有名な奴子行道は神輿着御の由緒地たる前記下川濱御潮待の出輿に供奉する式典なり

妻子を顧ぬ夫へ說諭願

山形縣東置賜郡大川村大字足川遠藤練太郎(三)は昨年の暮妻ハツ(三)及子供を置き無斷家出したが最近內郷村方面で坑夫をしてゐる事が判明したので同村に住むハツの知人に對し再三手紙で照會しても更に返事がなくハツは子供二人を抱ゑてその日の暮しにも困るから今七日夫の說諭方を平署に願ひ出た

七百圓の玉逃げる

平町三丁目料理業佐々木熊吉方に三月中前借七百圓で住込んだ抱酌婦秋田縣由利郡本庄町生れ藤井たモ、子(三)は四日午前零時三十分頃家人の隙を見て突然行方を晦したが足どりから同町城山ラヂウム旅館止宿の自稱北海道生れで婦女子誘拐常習の疑ある易者福永北洋と牒し合せての仕事らしく同人と同業の大平敬之進と云ふ男が三日平發下り急行で福永のトランクを持つて乘車岩手縣八戶市へ下車する形跡があるので今七日抱主から平署に同人の搜索方を願ひ出たが女は身長四尺七八寸位で左の眼の下にホクロがあると

農試分場の試驗で水田三毛作有望
一般農會に普及方針

神谷農試分場では昨年最初の試みたる水田三毛作の成績が極めて良好なので今年も繼續して一般農會に普及する事になつたと

三毛作は前年十一月中の收穫後これに麥を播き更に翌年五月初旬頃麥の成長を待つて麥の畝間に早成種の胡瓜苗を植ゐ付けるもので最も理想的な耕作法として好評あり、同場でも昨年の收益が反當り四十圓にも上つてゐる、今年は一昨五日に胡瓜苗の植ゐ付けを濟ませたのでこれが成果を期待されて居り齋藤場長以下少からず力瘤を入れてゐる

立夏麥作況
目下平作豫想

昨六日立夏當日の神谷農試分場に於ける麥況は(平均)草丈二尺八二四莖數七六本で春分當日の作況は草丈、莖數共に平年に比し優つてゐたが、其の後の氣温は例年に比し幾分高く降水量も多く更に地方稀に見る晩霜のあつた爲早生種中生種は草丈に於ては平年に比し優つたが晩生種は平年に比し劣つてゐる、莖數は早生種僅かに平年に比し優つてはゐるが中生、晩生種共に平年に比し劣つてゐる、出穗期は早生中生晩生種共に例年に比し速く特に早生種は三、四日、中生晩生は二日の速進で目下の作況平年作の見込であると

磐中生演習 磐中五年生二百餘名は今七日比佐、庄司兩敎師指導の下に夏井村方面に於て野外演習を行つた

農村對策協議 上、下小川村では十一日農會議員を招き農會振興對策を協議する郡農會齊山技師、吉成郡駐在技手、齊藤農試分場長が出席

縣敎育會總會 既報―第五十一回福島縣敎育會總會は來月十五、十六の兩日磐中講堂で開催に決定、會務報告、役員改選、總理推戴、會員演說、その他協議すると

小檜山校長上京 小檜山磐中校長は來る十七日より二十一日迄東京府立一中に開催さるゝ全國中等學校長會に出席すると

新綠は招ぐ

風薰る關東西へ
市制施行調査員 一行七名あす出發

市制施行調査委員會のトップを切つて此程大綱を樹立した警備衛生部では愈々左記先進都市の實際施設等を視察する事になり左の委員が明八日から五日間の豫定で出發すると
水戶(塵芥燒却場)平塚(火葬場)沼津(警備)豊橋(警備衛生の諸般)一の宮(警備衛生塵芥燒却)市川(市制施行の諸般)
更に近く郡山方面にも向ふ筈である、
(委員)關內正一、酒井濟、小松茂、堀江正茂、根本品藏、大森勇、馬目雅治

軍都見學團
十六日出發

平町在鄕軍人分會並に國防婦人會では來る十六日午前五時十五分發、十八日午後二時東京驛解散の二泊三日の豫定で江の島、鎌倉廻遊の軍都見學を行ふ事になり目下人員十名の募集に當つてゐるが費用概算合計十一圓五十錢(內譯汽車、自動車、船賃、宿泊料、辨當代)希望者は來る十三日迄藤田女學校內平町軍人會分會事務所宛申込まれたいと

磐中四年生京都方面へ

既報―磐中四年生百九十二名は明八日より五日間齋藤、大橋、山本中衆、下平、新谷各敎諭引率の下に修學旅行を行ふが日程左の如し
(八日)午前五時十五分平驛發 名古屋泊 (九日)名古屋 二見 伊勢神宮 奈良泊 (十日)奈良 桃山 京都泊 (十一日)京都 大津 石山 坂本 比叡山 嵐山 車中泊 (十二日)東京 午後二時五十分上野發 同七時三十七分平驛着

產組一行視察 石城產馬組合議員、評議員、役員廿三名は郡山並に栃木縣那須郡牧山牧場方面視察のため去る四日平發、今七日歸郡

磐中全生徒遠足 磐中では來る十日各學年別遠足運動會を行ふ

愛に飢えた子から親子關係確認請求
双葉から平支部へ提起

双葉郡刈野村東畑八七蒔田外藏(三)は相馬中村町佐藤辯護士を代理人として戶籍上の父卷藏(五二)母クマ(五二)に親子關係不存在確認、北海道北見國網走郡最寄村片山農場內東菊郞方東シヲ(六二)に親子關係存在確認請求の訴を此程平支部に提起した

外藏は明治三十七年實父亡春藏母シヲとの間に生れたが父が日露役出征中であつたゝめ一家の和平を考慮し前記長兄卷藏の長子として入籍された、シヲは同四十四年離婚となり大正六年東と再婚、同十四年三月春藏臨終にこの事を聞き北海道の母を慕ふて家出した事もあつたが母は家庭の事情から打解けないので實母から温い言葉を聞きたいばかりにこの訴に及んだものであると

空巣專門の老賊

ルンペン若松市材木町生れ前科二犯五十嵐市太郞(五九)は去月二十五日植田町仁井田猪狩トシ方の留守宅に忍び込み衣類、貴金屬等價格(五十餘圓)を竊取六日植田署に擧げられたが附近を空巣專門に荒したのも此の老賊と目下追究中

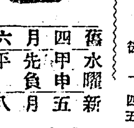
平區略式一束

密漁。 久ノ濱町東町一九漁業遠藤留治(七〇)は所有漁船佐志三丸の船長遠藤留吉その他が去る二月十五日來無免許で四倉町沖合及び禁漁區の大浦村仁井田川尻で底曳網密漁を行ひ去月三日檢擧され此程平區より罰金八十圓

失火。 泉村大字下川字神矢三六農江尻イノ(六〇)は三月十二日午前十一時頃竈の不始末から自家一戶を全燒せしめ同上三十圓

賭博。 錦村大字中田字中田原農兼飲食店小鍛冶淺雄(三五)同村大字江栗字馬場上遠野功(三七)同赤津濟勝(三五)の三名は三月十八日午後二時頃小鍛冶方で賭博開張、各科料十五圓を此程何れも平區より略式命令された

八日
(小名濱測候所調査)
日出 四、三九 月出前 八、五二
日沒 六、二八 月沒後 一一、二九
滿潮 前五、五五 後九、一〇
干潮 前〇、四〇 後一、四五



新 五月八日 水曜
舊 四月六日 甲申 先負 平 箕宿

諸判定應需
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神誠館

▲一白 名利共に擧る吉日但し遠行は後日にすべし▲二黑 運氣初めは伸ぶ難けれども後に吉たるべし▲三碧 苦み多くとも後日の爲と思ひて辛抱すべし▲四綠 利益を度外視して迄も突進して後悔する日▲五黄 根氣の限りを盡し順を守り序を亂さず進め▲六白 物事の調子に變動を生じ春の如く成らぬ日▲七赤 勞少くして效多き日旅行企業開店何れも吉▲八白 進退共に自由なる日但し辯舌注意すべし▲九紫 痩我慢をしても結局は骨折損に終るべき日

運動―服裝は
型と生地の良い……大塚へ
安價と仕立の良い運動具の品を店
○○○ 野球 庭球 競技 用 ユニホーム マーク御注文に應す。
△アンダーシャツ
△トレーニングシャツ パンツ 最新型・豊富
△ノータイシャツ
弊店自慢の……パンツ 十五錢より
飾り品澤山有ります。
何卒御用命の程を……
田町の…… 大塚 電話七七番
洋品店の品と御くらべ下さい。

流行ノ下駄ト草履ハ!
ドコヨリ安イ
南町 三井ハキモノ店
(小僧さん入用)
電話一八一番

專門 耳鼻咽喉科
高柳耳鼻咽喉科醫院
平町驛前 (電三三六)
醫學博士 高柳博明
(入院應需 自炊ノ便アリ)